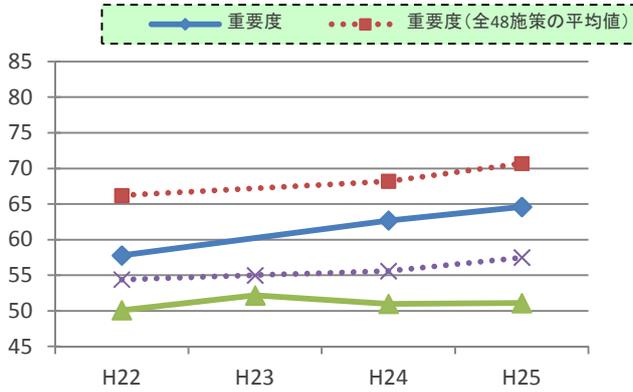


基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 地域振興部 都市整備部 土木部
基本方向	第1節 魅力と活気にあふれるまちをつくる	
施策目標	施策16 人が集い、魅力と活力あふれる中心市街地をつくる	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力あふれる中心市街地の形成に向け、枚方市駅周辺の自然や歴史文化遺産、商業施設を一体的にとらえた枚方市駅周辺の再整備に向けた取り組みを進めます。 ●枚方市駅周辺において、歴史や文化を生かしたイベントの開催や音楽などの発表の機会を設けるなど、市民によるにぎわいづくりを支援します。 ●芸術・文化の鑑賞機会を充実するとともに、自主的な活動を支援するため、総合文化施設の整備をめざします。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
枚方市駅周辺再整備ビジョン推進事業	枚方市の中心市街地にふさわしい魅力あふれる賑わいのあるまちを構築するため、25年3月に「枚方市駅周辺再整備ビジョン」を策定し、その実現に向けた取り組みを推進するため、25年8月に庁内委員会を設置。また、地元関係者等へ本ビジョンの内容の周知と今後のまちづくりについての意見交換を行うとともに、地元検討組織等の設立に向けた支援を実施
にぎわい空間創出等事業	京阪枚方市駅周辺を市民文化発信の中心として定着させ、地域の活性化に繋げるため、「震災復興チャリティーイベント」などの岡東中央公園（にぎわい広場）で開催される市民団体主体の各種イベントを支援
総合文化施設整備事業	新たな文化芸術の拠点となる総合文化施設の整備に向け、主な施設機能や事業手法、整備スケジュールなどを定めた「総合文化施設整備計画（案）」を25年度に策定

施策指標の推移	◆枚方市駅周辺の広場におけるイベント参加者数								◆枚方市駅の1日における平均乗降者数								
	単位	実績							目標	単位	実績						
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
人	-	88,520	108,670	123,550	116,000	80,900		130,000	人	89,849	93,198	98,919	90,849	90,322	90,965		-

市民意識調査の結果



市民満足度の推移については、他の施策と比べて満足度が低い傾向が続いている状況である。

	H22	H23	H24	H25
重要度	57.8	60.0	62.7	64.6
重要度(全48施策の平均値)	66.2	68.0	68.2	70.7
満足度	50.1	52.2	51.0	51.1
満足度(全48施策の平均値)	54.4	55.0	55.6	57.5

施策の成果(総括)

- 【魅力あふれる中心市街地の形成に向けた枚方市駅周辺の再整備】として、枚方市駅周辺再整備ビジョン推進事業などに取り組んだ。
- 【枚方市駅周辺でのイベント開催などによるにぎわいづくりの支援】として、にぎわい空間創出等事業などに取り組んだ。
- 【芸術・文化の鑑賞機会の充実や自主的な活動支援に向けた総合文化施設の整備】として、総合文化施設整備事業などに取り組んだ。

施策指標「枚方市駅周辺の広場におけるイベント参加者数」の推移については、25年度は悪天候により開催期間が短縮されたことに伴って、大幅に減少した状況である。また、「枚方市駅の1日における平均乗降客数」は、近隣の商業施設の閉店などに伴って、23年度以降、ピーク時より低い数値で推移している状況である。

今後の対応としては、市内外から人を呼び込むような賑わいのある中心市街地の形成に向け、その事業効果を広く発信しながら、事業の充実を図っていく。

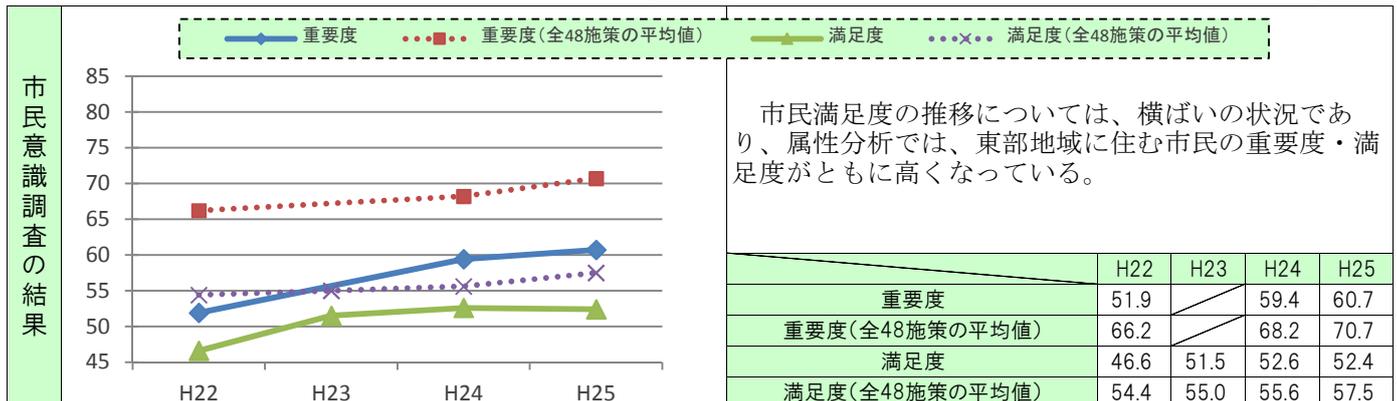
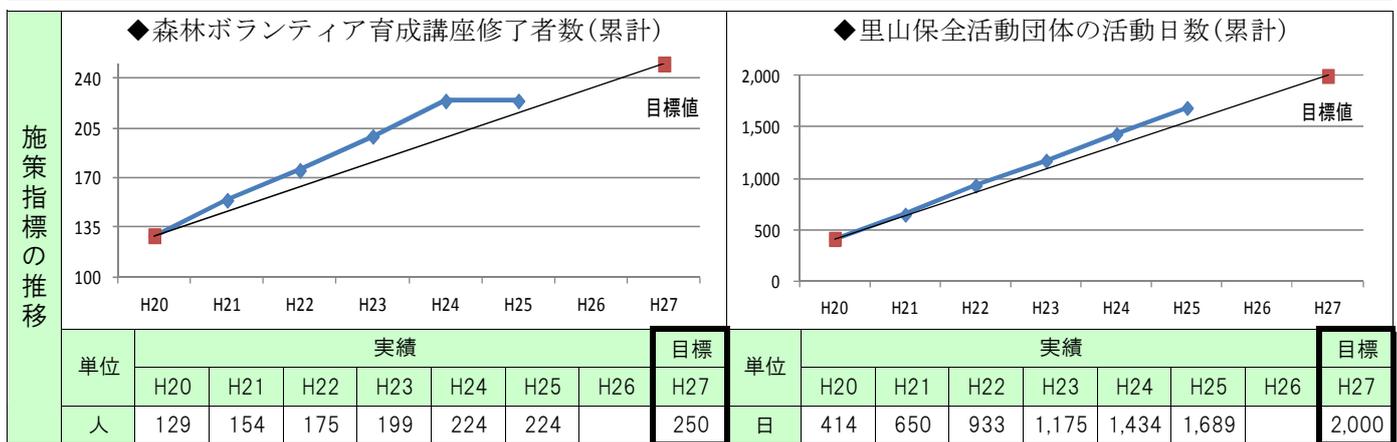
外部評価員による主な評価結果と市の考え方

- ・枚方市駅周辺の老朽化が進んでいるので再整備していくことが必要である。例えば、関西医大病院はきれいだが、そこにつながるルートはどうなのかといったように、各スポットが有機的につながった中心市街地をめざすべきである。また、人を呼び込むためには、イベントの開催だけでなく、まちの魅力アップが必要であり、今後、多くの人に利用してもらうための総合的な施策を進めるべきである。
- ・この施策については、学生、若者の重要度、満足度が低い傾向にあるが、イベント内容を若者向けにするなど工夫ある取り組みが必要である。
- ・中心市街地の活性化には、京阪電鉄など枚方市駅周辺の民間事業者との連携が欠かせない。民間事業者との連携の方向性を示し、より力強く政策を推進することで、経済効果や商業の活性化などにつなげてもらいたい。

外部評価員による評価結果を踏まえ、枚方市駅周辺再整備ビジョンの具体化に向けた取り組みを進めるとともに、枚方市駅周辺でのイベント開催の支援など本市の玄関「顔」である京阪枚方市駅周辺の賑わい創出に向けて、今後も本施策に関して広報などで効果的に情報発信していく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 都市整備部 土木部 社会教育部
基本方向	第1節 魅力と活気にあふれるまちをつくる	
施策目標	施策17 東部地域の魅力を高める	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●産業や大学との連携を図りながら、学術・研究開発の拠点機能を生かしたまちづくりをめざします。 ●東部地域の特性を生かし、里山の保全を進めるとともに、地域の自然と調和した公園を整備するなど、魅力あふれるまちづくりを進めます。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
津田サイエンスヒルズ推進事業	25年度に大阪府立北大阪高等職業技術専門校が開校。学術・研究開発の拠点機能を生かしたまちづくりの実現及び津田サイエンスヒルズと連携したにぎわいづくりの推進に向けて、地元まちづくり協議会やバス事業者と連携を継続。地域への通勤・通学の足となるバス路線を再編
里山保全活動補助事業	豊かな里山を保全するため、里山保全活動団体が行う木々の間伐や下草刈りなどの活動が安定的・継続的に実施されるよう支援
東部スポーツ公園整備事業	硬式野球もできる野球場等のスポーツ機能を備え東部地域の自然と調和した(仮称)東部スポーツ公園の整備に向けて、23・24年度に環境影響評価を実施するとともに26年度の野球場完成に向け、25年度から造成工事を実施



施策の成果(総括)

●【学術・研究開発の拠点機能を生かしたまちづくり】として、津田サイエンスヒルズ推進事業などに取り組んだ。

●【里山の保全や自然と調和した公園を整備するなど魅力あふれるまちづくり】として、里山保全活動補助事業、東部スポーツ公園整備事業などに取り組んだ。

施策指標「里山ボランティア育成講座修了者数」の推移については、25年度は台風被害により実習が中止となったが、目標達成に向け概ね順調に推移している状況である。また、「里山保全活動団体の活動日数」の推移については、目標達成に向け概ね順調に推移している状況である。

今後の対応としては、引き続き、市民の満足度を高めながら、事業の効果をより広く市民に発信していく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・東部地域は京阪沿線に住む人にとって行く機会の少ない地域であるため、市民が行きたくなるような仕掛けが必要である。

・この施策については、東部地域の市民の重要度・満足度が高い反面、他の地域の数値が低くなっているため、枚方市内での地域間の交流事業などより東部の魅力を発信する必要があるのではないかと考える。

外部評価員による評価結果について、里山の保全継承には、地権者・行政だけでなく市民参加が不可欠であり、里山保全活動団体が保全活動を安定的かつ継続的に行うことができるよう、今後も引き続き支援を行っていく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 土木部
基本方向	第1節 魅力と活気にあふれるまちをつくる	
施策目標	施策18 都市間の交通ネットワークを整備する	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●第二京阪道路の整備促進を要望するとともに、沿道の環境対策を行います。 ●新たな都市間交流の促進や市民の生活圏の拡大を図るため、（仮称）淀川新大橋の整備などに向けて、関係機関等に働きかけます。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
交通問題連絡調整事務	22年3月に第二京阪道路が全線開通し、京滋バイパス、近畿自動車道とのネットワークが形成。第二京阪道路と国道307号における3つの交差点の渋滞緩和を進めるため、道路管理者などとの連絡調整会議を開催し、渋滞対策に関する共有を図り、改善に向けた取り組みを実施
新名神高速道路・（仮称）淀川新大橋整備促進事業	新名神高速道路並びにそのアクセス道路の整備にあたって、周辺環境に十分配慮されるとともに、早期完成に向けて関係機関へ要望。淀川渡河橋についても、要望における根拠資料とするため、整備における課題や効果などを検証

施策指標の推移	◆幹線道路の整備率								◆国道1号における交通量								
	単位	実績							目標	単位	実績						
%	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	台	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	54.1	58.3	58.3	58.4	61.5	61.5		62.0		49,188	50,358	48,681	47,785	46,682	算出中		—

市民意識調査の結果					
	<p>市民満足度の推移については、23年度以降上昇傾向であり、重要度も上昇傾向となっている状況である。</p>				
		H22	H23	H24	H25
重要度		66.7	66.2	64.0	70.7
重要度(全48施策の平均値)		66.2	68.2	70.7	
満足度		57.6	51.5	53.4	56.5
満足度(全48施策の平均値)		54.4	55.0	55.6	57.5

施策の成果(総括)

●【第二京阪道路の整備促進及び沿道の環境対策】として、第二京阪道路の全線供用に向け、国・府への要望活動を行い、22年3月に全線開通した。また、渋滞解消に向け交通問題連絡調整事務などに取り組んだ。

●【(仮称)淀川新大橋の整備などに向けた関係機関等への働きかけ】として、新名神高速道路・(仮称)淀川新大橋整備促進事業などに取り組んだ。

施策指標「幹線道路の整備率」については、概ね順調に目標達成に向け推移している状況である。なお、本指標は、都市計画道路の見直しなどより、計画延長に変更が生じたことから、25年8月末時点で目標値及び実績値を整理した。「国道1号における交通量」の推移については、第二京阪道路開通など交通ネットワークの整備進捗に伴って、22年度以降減少傾向である。

今後の対応としては、この施策が交通の円滑化など他の重要度の高い傾向にある施策にも関連することからも、引き続き、効率的に取り組みを進めていく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・第二京阪道路の利点をうまく活用すべきである。道路整備により、第二京阪道路に接続するネットワークを充実させることで、相乗効果が期待できる。

・(仮称)淀川新大橋などの整備の支援・実施を国・府に要望とあるが、市の取り組みとして、もう少し具体性のある対応策を示すべきである。

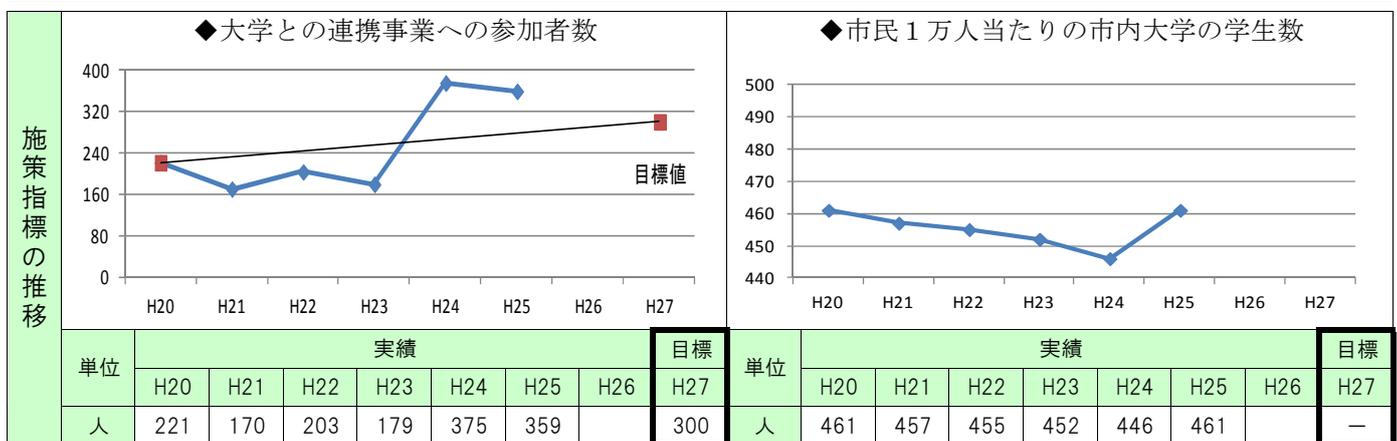
外部評価員による評価結果を踏まえ、第二京阪道路や京都縦貫道の開通、新名神高速道路の着工などにより、重要度が24年度より大きく上昇している状況である。道路ネットワークの軸となる第二京阪道路の全線開通により、車両が分散し国道1号など主要幹線の交通量は減少している状況。今後も引き続き、関係機関と市内交通状況の共有を図り、課題整理、対策の検討などに取り組んでいく。

また、市域の交通ネットワークの充実が図られる新名神高速道路の事業促進や淀川を渡河する(仮称)淀川新大橋の整備の実現に向けて、引き続き、NEXCOWest日本株式会社など関係機関に強く要望を行っていく。

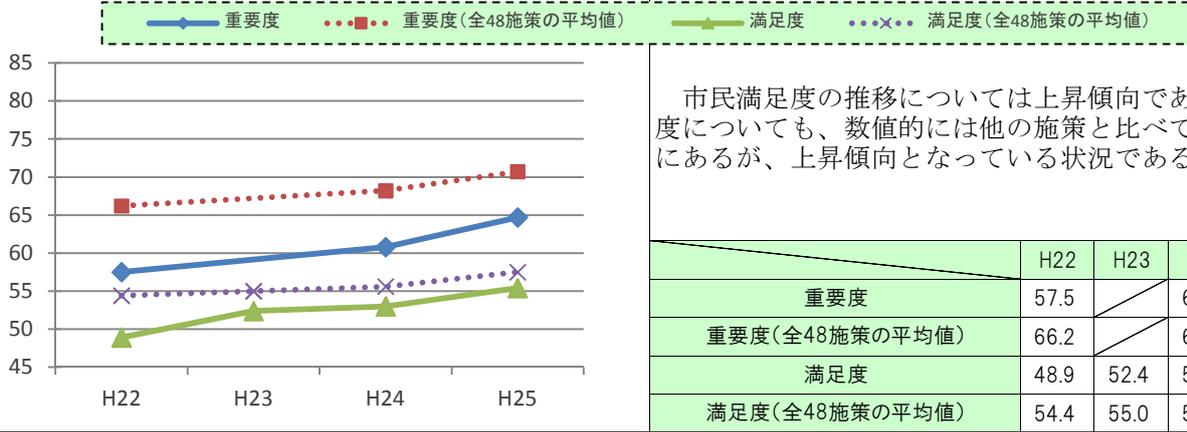
基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 地域振興部
基本方向	第1節 魅力と活気にあふれるまちをつくる	
施策目標	施策19 活力ある学園都市をつくる	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●大学との連携・協力により、生涯学習機会の充実や図書館などの大学施設の利用を進めます。 ●市内6大学の研究情報を発信するなど、産業・大学との連携を強める取り組みを進めるとともに、文化や観光、教育分野などで学生のボランティア活動など、学生の活力を生かした取り組みを進めます。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)

ひらかた市民大学開催事業	市内6大学との連携により、大学の専門的な知識・情報を市民に提供し、生涯学習の推進と生きがいの増進を図るため、各大学のそれぞれの特色を活かした講座を開催
子ども大学探検隊事業	小学生が、将来の夢を育んだり、市内6大学に親しみを感じてもらうため、大学の特色を生かした学習体験や学内施設見学を実施
ひらかたコミュニケーションカフェ開催事業	まちづくりや文化などをテーマに、市民・学生が対話しながら学習できる場としてコミュニケーションカフェを開催してきたが、世代間交流やテーマの理解をより深めていく手法やそこから得られた成果を、学園都市ひらかた推進協議会の今後の事業（ひらかた市民大学等）に生かしていくこととし、本事業は24年度をもって終了
産学公連携フォーラム開催事業	市内経済の活性化を図るため、地域の企業、大学、市、ひらかた地域産業クラスター研究会などの連携により、フォーラムを開催



市民意識調査の結果



市民満足度の推移については上昇傾向であり、重要度についても、数値的には他の施策と比べて低い傾向にあるが、上昇傾向となっている状況である。

	H22	H23	H24	H25
重要度	57.5	60.8	64.7	
重要度(全48施策の平均値)	66.2	68.2	70.7	
満足度	48.9	52.4	53.0	55.4
満足度(全48施策の平均値)	54.4	55.0	55.6	57.5

施策の成果(総括)

- 【大学との連携・協力による生涯学習機会の充実や大学施設の利用促進】として、ひらかた市民大学開催事業、子ども大学探検隊事業、ひらかたコミュニケーションカフェ開催事業などに取り組んだ。
 - 【産業・大学との連携強化や学生の活力を生かした取り組み】として、産学公連携フォーラム開催事業などに取り組んだ。
- 施策指標「大学との連携事業への参加者数」については、概ね順調に推移している状況である。「市民1万人当たりの市内大学の学生数」については、ほぼ横ばいの状況である。
- 今後の対応としては、この施策が市に活力を与えるものであることから、引き続き、効果的に取り組みを進める。

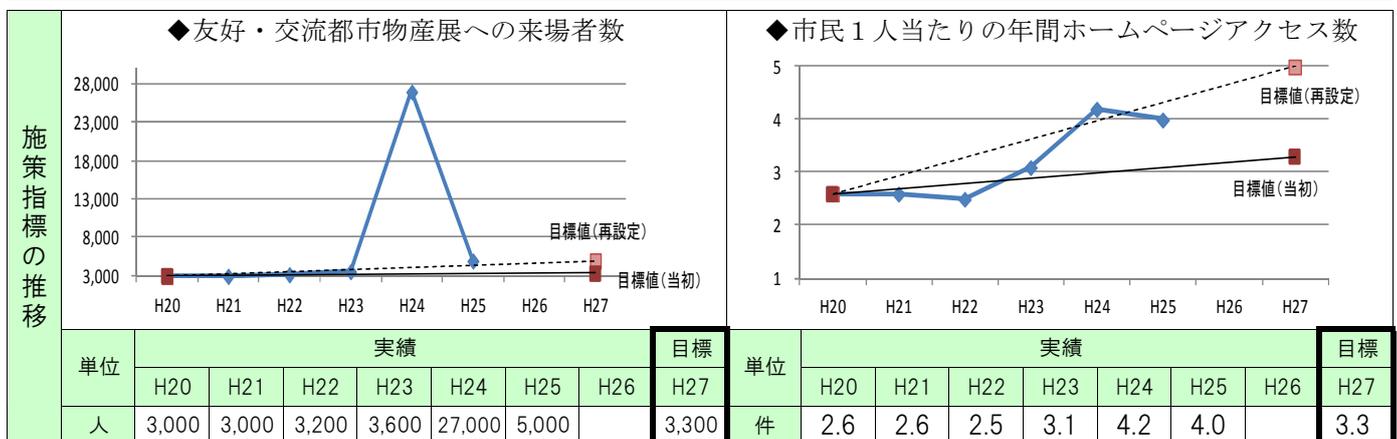
外部評価員による主な評価結果と市の考え方

- ・「子ども大学探検隊」については、市PTA協議会と連携してPRを強化したり、学校の授業の一環として組み込むことも有効である。子どもたちに、学園都市に住んでいることの認識を持ってもらうことにつながる。
- ・学生に地域への愛着を持ってもらうため、行政・地域に参加してもらう機会を設ける施策を講じていく必要がある。
- ・市内6大学との連携が弱いと思う。行政の窓口を一本化し、太いパイプで情報提供や相談を行い、更に連携していくべきである。
- ・産学公連携フォーラム開催事業について、参加者の増加に向けた検証が必要である。

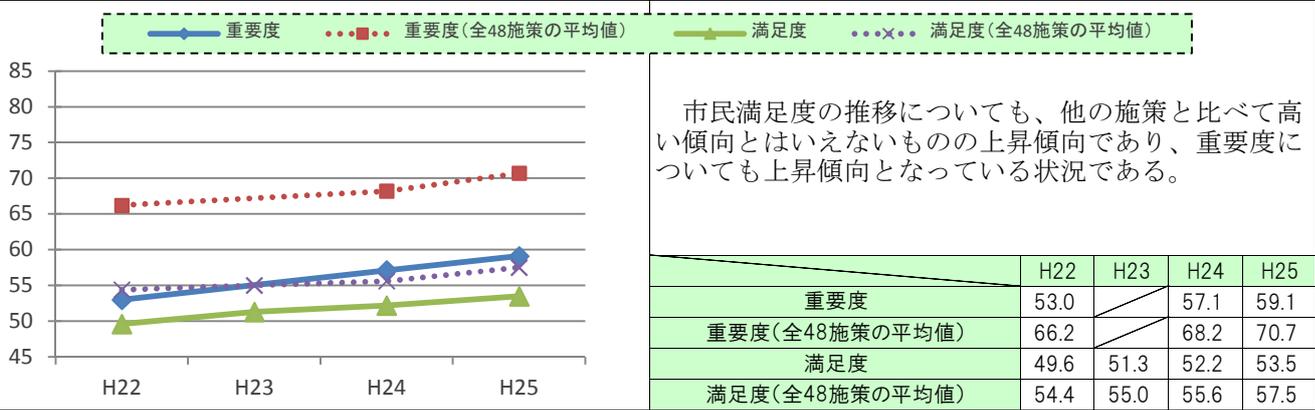
外部評価員による評価結果を踏まえ、生涯学習機会の充実や大学施設の利用促進に向けて、今後も引き続き、各大学の特色を生かした講座を提供し、より効果的な周知に取り組み事業の充実を図る。
また、産学公連携フォーラムについては、今後、これまで以上に積極的な事業周知に努めるとともに、事業者ニーズを捉えた上でより実践的な講演内容を検討していく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 政策企画部 地域振興部
基本方向	第2節 集客交流がひろがるまちをつくる	
施策目標	施策20 人と情報の交流を促進する	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●教育・文化・産業等を通じて、地域内外の交流を促進します。 ●大学や市民団体等と連携・協力し、地域の観光資源などの情報発信を進めます。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
国内友好都市交流推進事業	友好都市である高知県四万十市・北海道別海町・沖縄県名護市との市民交流を推進し、友好の絆を強めた。25年度は、別海町と被災地から中学生を本市に招き、本市中学生と野外活動センター他で交流事業を実施
友好・交流都市物産展開催事業	24年度は、淀川河川公園で市制施行65周年記念事業「くらわんか産業いきいきまつり」と連携した取り組みを実施。25年度は、岡東中央公園で、国内友好都市、市民交流都市などの名産品などを販売する「友好・交流都市物産展」を開催
枚方市魅力発信事業	観光資源を活用した情報発信の強化として、ひらかたパークバラ園での市内音楽団体の演出による結婚式を、学生・事業者・行政の連携により実施
枚方市駅市民サービスセンター改修事業	枚方市駅市民サービスセンターを全市的な観光情報発信拠点と位置付け改修。24年度にリニューアルオープン
ひらかた検定開催事業	枚方の魅力を発信し、枚方をより深く知ってもらうきっかけにするため、19年度以来、5年ぶりに「ひらかた検定」を開催。目標受験者数300人を大幅に上回る584人が参加



市民意識調査の結果



市民満足度の推移についても、他の施策と比べて高い傾向とはいえないものの上昇傾向であり、重要度についても上昇傾向となっている状況である。

施策の成果(総括)

●【教育・文化・産業等を通じた地域内外の交流促進】として、国内友好都市交流推進事業、友好・交流都市物産展開催事業などに取り組んだ。

●【地域の観光資源などの情報発信】として枚方市魅力発信事業、枚方市駅市民サービスセンター改修事業、ひらかた検定開催事業などに取り組んだ。

施策指標「友好・交流都市物産展への来場者数」については、24年度は淀川河川公園で市制施行65周年記念事業「くらわんか産業いきいきまつり」と連携した取り組みを実施したことから、来場者数が大幅に増加するなど、概ね順調に目標達成に向け推移している状況である。「市民1人当たりの年間ホームページアクセス数」については、当初の目標値を上回る実績を上げたため、新たな目標を設定し、取り組んでいる状況である。

今後の対応としては、この施策が市の魅力の向上につながるものであることから、引き続き、効果的に取り組みを進める。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・メディアを活用するなど民間事業者との連携を進め、枚方市の取り組みをもっと積極的に情報発信することが必要である。また、枚方市の情報発信力を強化し、市民一人ひとりに枚方の歴史・文化を知ってもらうことが重要で、それがまちの誇りへとつながる。地域貢献としての協力が期待できる民間事業者と連携して、魅力ある枚方市へとつながる取り組みに期待する。

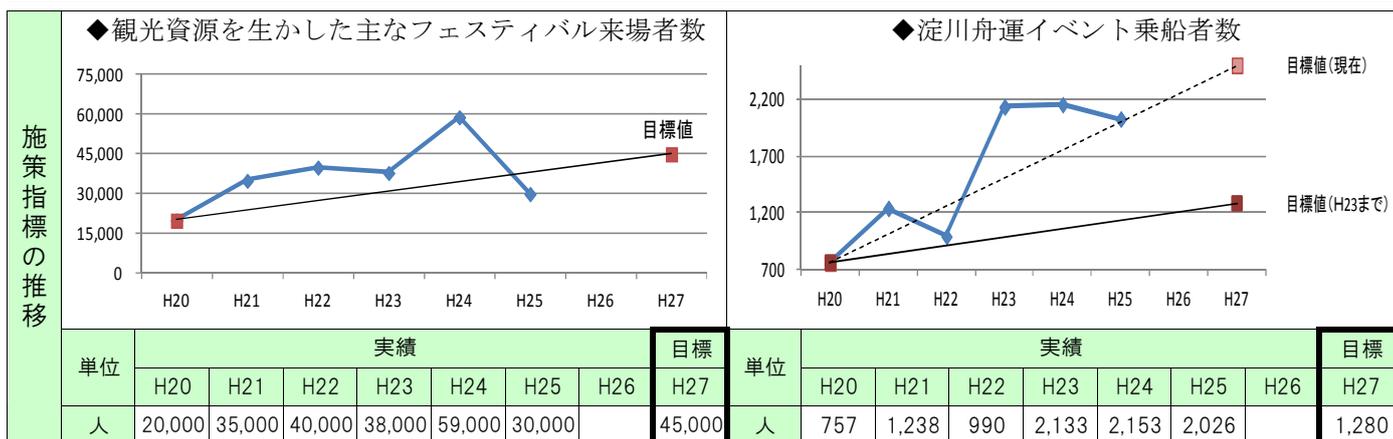
・まち婚の取り組みは、結婚することによりまちに活力が出てくるという側面がある。長い目で見て、結婚して枚方に住んでもらえれば、市の施策につながってくる。

外部評価員による評価結果を踏まえ、今後も引き続き、枚方市魅力発信事業の実施にあたっては、効率的な事業の実施のため、事業のさらなる改善を図るべく、調査・検討を進める。

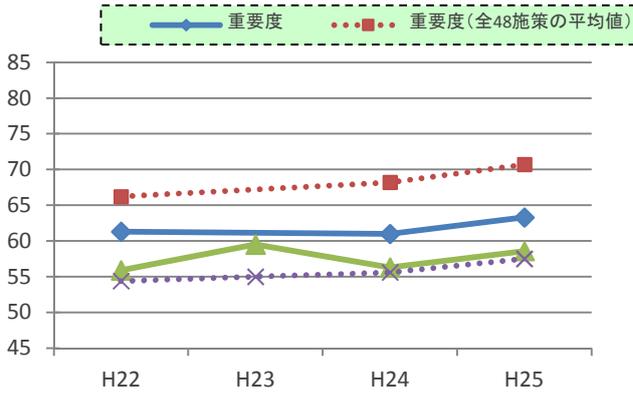
また、枚方市駅改札口前のひらかた観光ステーションは、リニューアルオープン後、来場客、売り上げともに増加している状況であり、今後も引き続き、全市的な観光資源の発信について一層の充実を図る。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 政策企画部 地域振興部 都市整備部
基本方向	第2節 集客交流がひろがるまちをつくる	
施策目標	施策21 文化観光資源を整備し、まちづくりに生かす	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●枚方宿における町家の活用や五六市の開催、舟運の再生などを観光資源として生かし、市民・事業者・行政の協働により、魅力あるまちづくりを進めます。 ●伝統・伝承文化や伝統産業を生かしたまちのにぎわいの創出や市民の自主的な活動を支援します。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
枚方宿地区歴史的景観保全事業	歴史と文化を色濃く残す枚方宿地区において、歴史的景観を保全・整備し、魅力あるまち並みを形成するため、町屋などの修景に対して助成金を交付
枚方宿地区出店促進事業	歴史的景観の保全と賑わいの創出を目的として、枚方宿地区に新規出店する小売・飲食店業者の店舗の賃借にかかる経費の1/4相当額を24ヶ月間にわたり補助
淀川舟運推進事業	災害時の輸送手段や歴史ある観光資源としての役割が期待される淀川の舟運再生に向けて、八軒家浜(天満橋)から枚方間で遊覧船を運航するイベントを春と秋の年2回実施。 また、24年度には、市制施行65周年記念事業「くらわんか産業いきいきまつり」において、枚方船着場周辺における小型船舶による舟遊を実施
菊フェスティバル開催事業・菊人形支援事業	ひらかた菊フェスティバルとして「菊花展」「枚方宿街道菊花祭」「市民菊人形展」などを開催。また、京阪枚方市駅周辺等へ菊人形を展示するなど市民による菊人形づくりを支援
枚方フェスティバル協議会支援事業	枚方フェスティバル協議会主催事業で、まちの文化・歴史・伝統を発信し、市民が主体となって盆踊り大会やステージイベント、模擬店、パレードなどを行う「枚方まつり」に対する支援
伝統産業育成事業	伝統産業の後継者の育成として、市内で河内そうめんづくりの技術の習得研修を受ける者に対して、奨励金を交付。また、伝統産業の普及・啓発を推進



市民意識調査の結果



市民満足度・重要度の推移については上昇傾向となっている状況である。

	H22	H23	H24	H25
重要度	61.3	61.0	61.0	63.3
重要度(全48施策の平均値)	66.2	68.2	68.2	70.7
満足度	55.9	59.5	56.3	58.6
満足度(全48施策の平均値)	54.4	55.0	55.6	57.5

施策の成果(総括)

- 【枚方宿における観光資源を生かした魅力あるまちづくり】として、枚方宿地区歴史的景観保全事業、枚方宿地区出店促進事業、淀川舟運推進事業などに取り組んだ。
- 【伝統・伝承文化などを生かしたにぎわい創出や市民の自主的な活動の支援】として、菊フェスティバル開催事業・菊人形支援事業、枚方フェスティバル協議会支援事業、伝統産業育成事業などに取り組んだ。

施策指標「観光資源を生かした主なフェスティバル来場者数」については、25年度は悪天候により開催期間が短縮されたことに伴って、大幅に減少した状況である。「淀川舟運イベント乗船者数」については、民間事業者による舟運事業が定着し、運航本数そのものが増えたことにより、当初の目標値を上回る実績を上げたため、新たな目標を設定し、取り組んでいる状況である。

今後の対応としては、引き続き、費用対効果を検証し、施策の必要性について市民の理解を深めながら効果的に取り組んでいく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

- ・菊人形用の菊の確保と後継者育成に向けた菊栽培農家の支援策などを検討すべきである。また、菊師育成のための助成金創設など、伝統を継承するための取り組みも検討すべきである。
- ・アンケート結果では、高齢者で重要度が高い傾向にある。今後、ひらかた大菊人形以外で枚方の柱となるシンボルを作っていくため、世代ごとに「枚方らしさ」とは何かということを集約してもよいと考える。
- ・重要度を上げる取り組みが必要な施策である。小中高、また市内大学において、枚方市の歴史を学習し、発表する機会をもっと増やしてはどうかと考える。

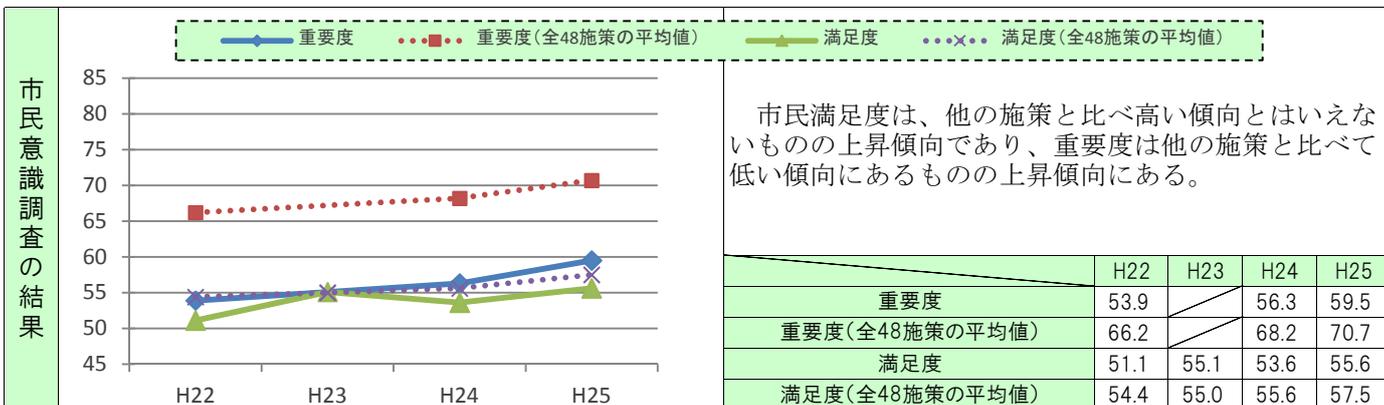
外部評価員による評価結果を踏まえ、本市郷土の象徴「菊」を発信する取り組みについて、菊フェスティバルの関連イベントが予定されていたが、24年度は天候の影響もあり来場者数が大きく減少したため、順延日の設定など雨天時の対応とともに、事業内容等の見直しを行っていく。
また、枚方まつりについても、本市のシンボル事業として、より一層「枚方らしさ」を発信するため、事業内容等の見直しを行っていく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 地域振興部 土木部
基本方向	第2節 集客交流がひろがるまちをつくる	
施策目標	施策22 花と音楽を生かしたまちづくりを進める	
取り組みの方向	<p>●花や音楽などに関する活動を通じて、人々が協力し、共感することで、人と人をつなぎ、交流を育み、枚方独自の文化を醸成します。</p> <p>●市民・事業者・行政が連携・協力して、花や音楽を生かしたまちづくりに取り組み、その魅力を発信していきます。</p>	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)

桜フェスティバル開催事業	花と音楽のまちづくりに関する情報発信の強化として、市の花「桜」を広く発信するため、桜の開花時期にあわせて「さくらまつり」や「市の花“桜”短歌会」を実施。また、桜開花情報コーナーを各生涯学習市民センターなどに設置
こどもミュージカル支援助成事業	子どもの健全な育成や相互交流を目的に、市内の小中学生が夏休み期間中を利用してミュージカル制作及び発表を行う「こどもミュージカル」開催を支援
菊人形支援事業	京阪枚方市駅周辺等へ菊人形を展示するなど市民による菊人形づくりを支援
菊コンサート開催事業	市の花「桜」「菊」に親しみ、音楽を感じるイベントの開催として、「ひらかた菊フェスティバル」期間中に岡東中央公園において、市民参加による「菊コンサート（観菊の調べ）」を実施
桜の名所づくり事業	地域との連携による桜の植樹など花の名所づくりの推進として、各公園等へ桜を植樹

施策指標の推移	◆桜と菊を生かしたフェスティバル来場者数								◆桜の植樹本数(累計)								
	単位	実績						目標	単位	実績						目標	
人	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	本	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	55,000	62,000	67,600	67,300	37,700	28,700		79,500		3,572	3,620	3,845	3,998	4,169	4,297		4,100



施策の成果(総括)

●【花や音楽などに関する活動を通じた枚方独自の文化の醸成】として、桜フェスティバル開催事業、こどもミュージカル支援助成事業などに取り組んだ。

●【市民・事業者・行政が連携した花や音楽を生かしたまちづくりの魅力発信】として、菊人形支援事業、菊コンサート開催事業、桜の名所づくり事業などに取り組んだ。

施策指標「桜と菊を生かしたフェスティバル来場者数」については、24・25年度は悪天候により開催期間が短縮されたことに伴って、大幅に減少した状況である。一方、「桜の植樹本数」については、当初の目標値を上回る実績を上げたため、新たな目標を設定し、取り組んでいる状況である。

今後の対応としては、他の施策に比べて特に市民の重要度が低い傾向にあることから、引き続き、費用対効果を検証しながら取り組みを進めていく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・「こどもミュージカル」のような体験型の取り組みは、子どもたちの学びや成長にもつながる素晴らしい事業だと思うので、強化して進めるべきである。

・登下校時の通学路に桜を植樹することや、花壇をつくる際に小・中学生にも関わってもらい、みんなで花を大切に育てたり、定期的に清掃活動などを行うことを通して、花がよりきれいに映えるような風景を守る取り組みも必要である。

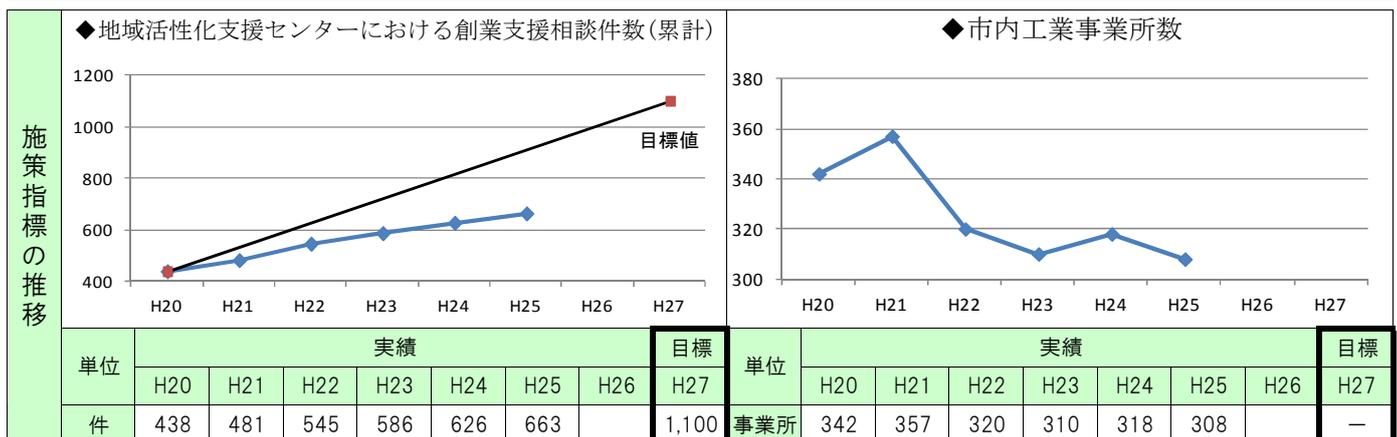
・花や音楽を楽しむだけでなく、花や植物等を育て、その過程を見守ることを教育分野において生かしていくことも重要である。

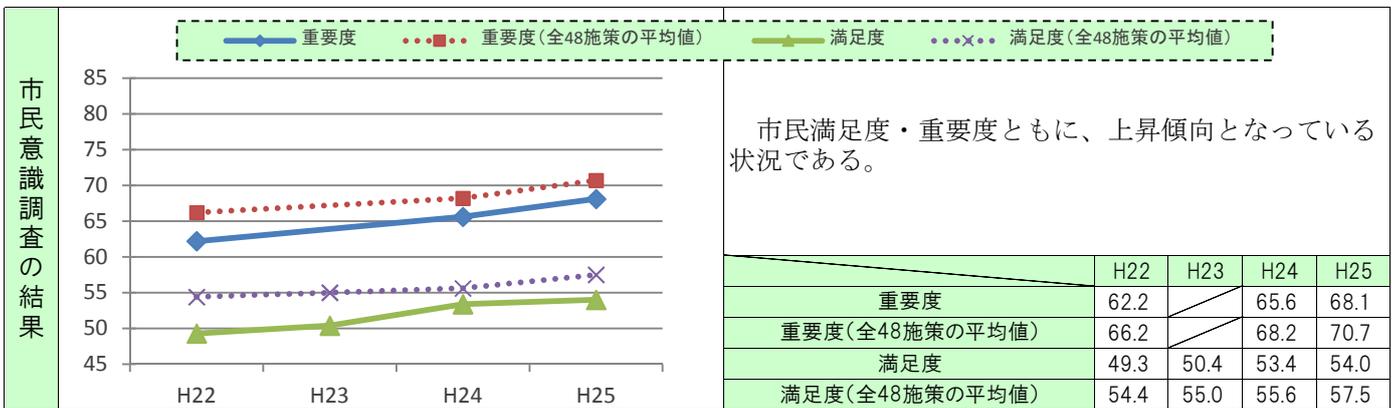
外部評価員による評価結果を踏まえ、こどもミュージカルは、こどもの感性を育む上で重要な事業であり、参加者拡充に向け効果的なPRを図っていく。また、緑化フェスティバルや菊花展などのイベントを通して、効果的な市の花「桜」・「菊」のPRに努めるとともに、公園等におけるアダプト活動へ、子どもの参加を促進するなど、幅広い年代の市民の参画を得ながら効果的な発信を行っていく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 地域振興部
基本方向	第3節 時代の変化に対応した産業を興す	
施策目標	施策23 市内産業の高度化・活性化を図る	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●地域産業の活性化を進めるため、企業間の連携を支援するとともに、インキュベートルームの活用や創業に関する講座の開催など、新たな技術の開発や事業の立ち上げを支援します。 ●企業団地などを中心に、企業立地や製造業の機能集積を図ります。 ●経営基盤の強化に向けて、社会経済状況に応じて融資制度の充実を図るとともに、産業技術、工業製品などの情報を事業者との連携により、本市内外に広く発信する取り組みなどを支援します。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)

創業支援事業	市内の創業希望者を支援するため、市立地域活性化支援センターでのアドバイザーによる個別相談や各種セミナー開催、1年間にわたり創業のノウハウを学ぶ「きらら創業実践塾」、事務所スペースを長期的に安価で貸し出す「インキュベートルーム(創業支援室)」の提供、インキュベートルームからの卒業にあたり事務所等の賃借料の一部を補助する「テイクオフ補助金制度」により、支援を実施
企業立地促進奨励金	津田サイエンスヒルズ地区内で企業等の立地促進を図るため、土地面積及び建物延床面積の1㎡当たり500円を乗じて得た金額(固定資産税相当額の1/2を上限)を交付。津田サイエンスヒルズの新規立地の完了に伴い、25年度をもって事業終了
地域産業基盤強化事業	企業立地の促進や地域産業基盤の強化として、新たな企業の立地や設備投資を促すため、固定資産税課税額の50%相当額を支援
事業資金融資補助事業・緊急資金融資信用保証料補給事業	市内事業者に対する経営支援として、大阪府の市町村連携型融資または開業サポート資金融資の利用者を対象に、信用保証料の補給金を交付。東日本大震災復興緊急資金融資及び景気対応緊急資金融資(原材料価格高騰対応等緊急資金融資)についても信用保証料の補給金を交付
「マルシェ・ひらかた」「くらわんか産業いきいきまつり」開催事業	新たな産業分野間連携のきっかけづくりとして、枚方産の農産物やこだわり商品が並ぶまち中市「マルシェ・ひらかた」を開催。24年度については、市制施行65周年記念事業として、「マルシェ・ひらかた」のほか「枚方市農業まつり」「友好・交流都市物産展」などの物販イベントが一堂に会する大規模な産業総合イベントを「くらわんか産業いきいきまつり」として実施
産業振興キャラクター制作事業	七夕伝説にちなんだ産業振興キャラクターを公募し、219件の応募作品の中から「ひこぼしくん」を選考。民間事業者等に対し、産業の活性化に寄与する場合にキャラクターデザイン及び着ぐるみの使用を許可





施策の成果(総括)

- 【企業間の連携や新たな技術開発・事業の立ち上げの支援】として、創業支援事業などに取り組んだ。
- 【企業立地や製造業の機能集積の促進】として、企業立地促進奨励金、地域産業基盤強化事業などに取り組んだ。
- 【社会経済状況に応じた融資制度の充実や産業技術などの情報発信の支援】として、事業資金融資補助事業・緊急資金融資信用保証料補給事業、「マルシェ・ひらかた」「くらわんか産業いきいきまつり」開催事業、産業振興キャラクター制作事業などに取り組んだ。

施策指標「地域活性化支援センターにおける創業支援相談件数」については、依然として創業相談のニーズは高い状況にあり、ニーズに沿った事業の実施・周知等を図り、引き続き目標達成に向け取り組んでいく。施策指標「市内工業事業所数」については、減少傾向となっている状況である。

今後の対応としては、引き続き、市民の満足度を高めながら、事業効果をより広く市民に発信していく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

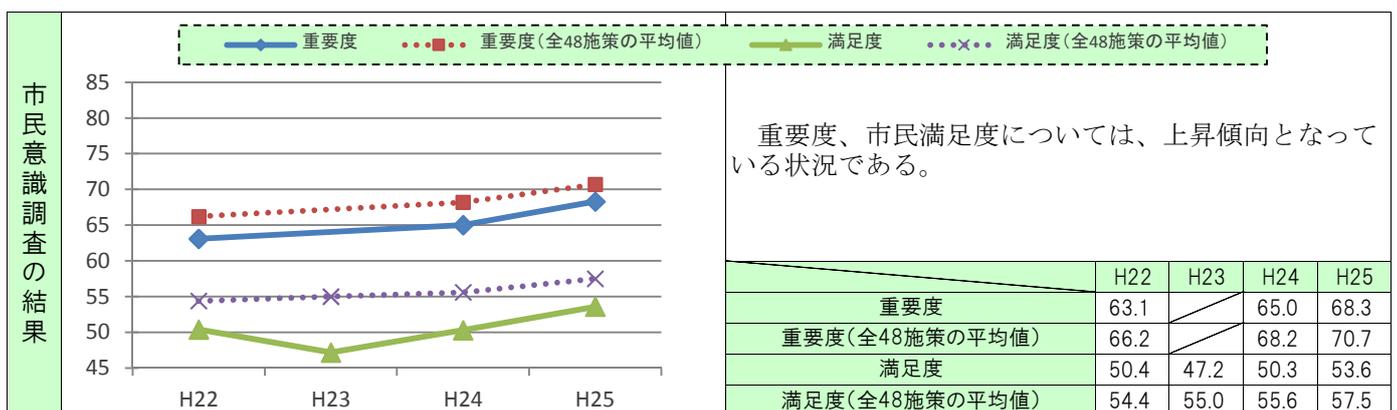
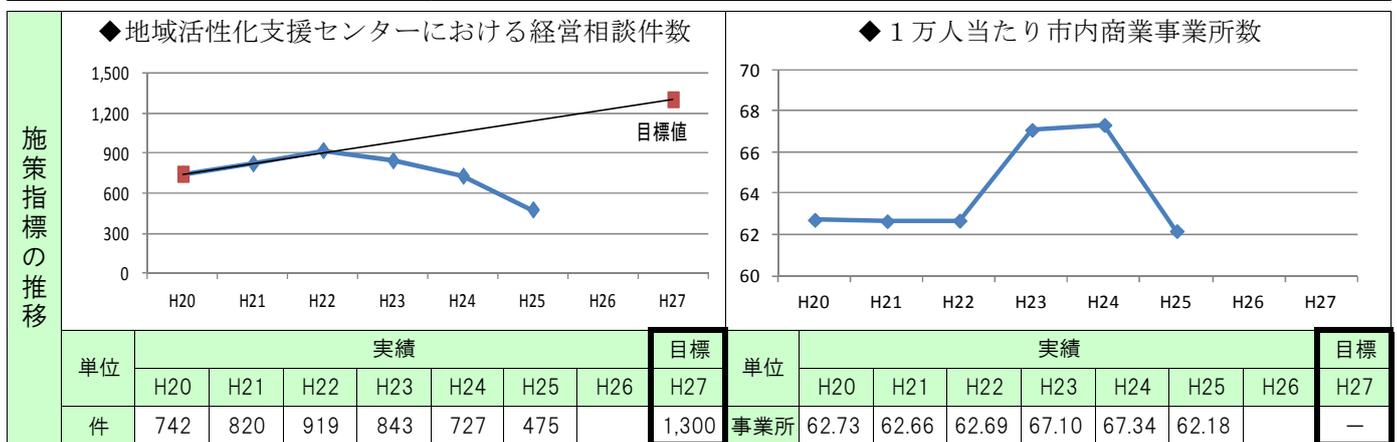
- ・従来からの事業にとどまらず、構造転換的なものを促すような取り組みについて検討すべきである。
- ・産業の活性化を進めるには、交通のネットワークや交通渋滞の問題が影響する。新しい企業を誘致していくためにも、交通整備にも力を入れるべきである。
- ・創業支援事業について、支援の実績だけでなく、支援を受けた側の感想など効果を示していくことで、重要度・満足度が高まっていくと考える。
- ・この施策については、実績数値等で評価するのではなく、支援を受けた人たちの声を拾い、その内容を記載してほしい。それがよりよい分析につながると考える。

外部評価員による評価結果を踏まえ、本施策は施策アンケートの結果では重要度、満足度ともに低い傾向にあるが、経年で比較すると一定の向上が見られ、取り組みの効果が徐々に表れてきていると考えている。

今後も効果的かつ継続性のある講座の開催によって創業を希望する事業者の活動を支援していく。また、企業の新規立地や設備投資を促進し、地域経済の活性化に繋げるため、事業者ニーズの把握などによる効果的な事業内容の再検討を行うとともに、事業の意義等についてもPRに努めていく。

基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 地域振興部
基本方向	第3節 時代の変化に対応した産業を興す	
施策目標	施策24 地域に根ざした産業を育成する	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティビジネスなどの地域に根ざした産業を支援します。 ●身近な地域で買い物ができるように、高齢者などの利便性を確保しながら、生きがいや雇用の創出につながる地域に根ざした商業活動を育みます。 ●商店街とNPO・地域コミュニティなどと協働し、商店街の活性化を支援します。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)	
枚方市産業活性化支援補助金事業	地域資源を活用し、新規性・独創性・継続性に優れたユニークなビジネスモデル事業に新たにチャレンジする市内中小企業者等のスタートダッシュの支援を実施
商店街等活性化促進事業補助金	にぎわいの創出や魅力づくりを積極的に取り組む商店街の活性化支援として、独自性のある取り組みを行うオンリーワン商店街創造事業や、商店街を広くPRする魅力発信事業、夏祭りイベントなどの販売促進事業、街路灯のLED化事業などの共同設備等整備事業、街路灯の電気代の負担を行った商店街などに対する助成を実施



施策の成果(総括)

●【コミュニティビジネスなどの地域に根ざした産業の支援】として、枚方市産業活性化支援補助金事業などに取り組んだ。

●【身近な地域で買い物ができる商業活動の育成や商店街活性化の支援】として、商店街等活性化促進事業補助金などに取り組んだ。

施策指標「地域活性化支援センターにおける経営相談件数」については、カウント方法を変更して、電話での相談を相談件数から除外し、対面相談のみをカウントしたことに加えて、20年のリーマンショック、23年の東日本大震災と景気の落ち込みが顕著に見られた要因が続いたが、それも徐々に回復しつつある現在、経営に係る相談件数が減っていったものと推測される。社会指標である「1万人当たり市内商業事業所数」については、横ばいで推移している状況である。

今後の対応としては、引き続き、市民の満足度を高めながら、事業効果をより広く市民に発信していく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・高齢者や障害者、小さな子どもを抱えている親にとって、買い物がしやすいような、あるいは配達をしてくれるようなビジネスや商店街を促進するような事業を展開するように、より具体性のある産業を育成することによって、重要度や満足度も上がってくると考える。地域貢献がより明確になるような事業を検討すべきである。

・コミュニティビジネスや福祉サービスの視点による地域に根ざした産業を支援することで、雇用を生み出していくことも市の役割と考える。

・高齢者、障害者、子育て世帯が気軽に地域で買い物ができるような取り組みが必要である。今後、地域貢献に特化した事業を展開していくべきである。

外部評価員による評価結果を踏まえ、コミュニティビジネスなどの地域に根ざした産業の支援として、より広く、新規性・独創性及び継続性の高い事業提案を受け、枚方市から他市に誇れる新しい産業が誕生するよう効果的な制度の周知を図る。また、商店街等の活性化に向けた支援制度については、事業内容、申請状況を検証し、今後も多様化していくことが予想される事業者ニーズに即した制度の充実を図るとともに、地域活性化に向け取り組んでいく。

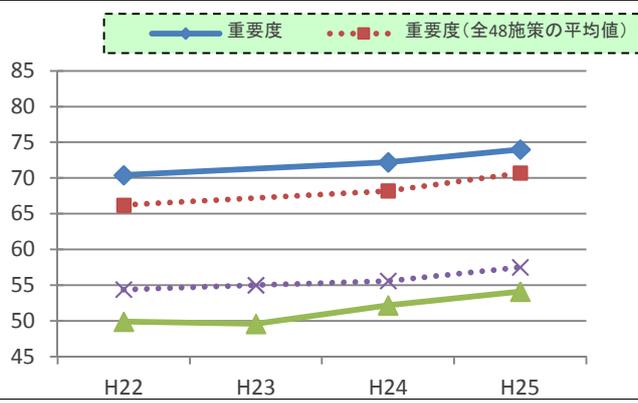
基本目標	第3章 魅力にあふれ、生き生きとしたまち	所管部 政策企画部 地域振興部
基本方向	第3節 時代の変化に対応した産業を興す	
施策目標	施策25 雇用の確保と労働環境等の改善を進める	
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関と連携し、新たな雇用機会の創出や就労に関する取り組みを支援します。 ●事業者や働く人々と連携・協力し、豊かな生き方を見出すためのワーク・ライフ・バランスの実現に向けた啓発を推進します。 	

取り組みの方向に沿った事務事業の実績(主なもの)

雇用対策事業	雇用環境の改善及び就労促進を目的として、枚方市・寝屋川市・交野市・大阪府等と共に実施する「三市合同企業就職面接会」や、ハローワーク枚方と連携した各種就職面接会を開催
地域就労支援事業	地域就労支援センターにおいて、就労相談をはじめ、パソコン・簿記・介護職員初任者研修等の資格取得に向けた能力開発講座の開催などを通して、就労支援を実施
ワーク・ライフ・バランス啓発事業・就労支援事業	男女共同参画週間事業のテーマのひとつとして取り上げたほか、幅広い層の市民が参加するウィル・フェスタにおいてワーク・ライフ・バランスパネル展を実施。ワーク・ライフ・バランス啓発リーフレットを各種講座で配布及び人権政策室と男女共生フロア・ウィルに常時配置し、市民への周知を図るとともに、枚方事業所人権推進連絡会に対して制度についての情報提供を実施。また、就労支援講座を開催

施策指標の推移	◆相談者のうち就労に結びついた人数(累計)								◆シルバー人材センター登録者数								
	単位	実績							目標	単位	実績						
人	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	事業所	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	122	160	201	244	294	326		350		3,009	3,097	3,272	3,241	3,060	2,719		—

市民意識調査の結果



市民満足度の推移については、上昇傾向であるものの、重要度と満足度の乖離が大きく、高い傾向にある重要度に応じた満足度を確保する必要がある。

	H22	H23	H24	H25
重要度	70.4	72.2	74.0	
重要度(全48施策の平均値)	66.2	68.2	70.7	
満足度	49.9	49.6	52.2	54.1
満足度(全48施策の平均値)	54.4	55.0	55.6	57.5

施策の成果(総括)

●【新たな雇用機会の創出や就労に関する取り組み支援】として、雇用対策事業、地域就労支援事業などに取り組んだ。

●【ワーク・ライフ・バランス実現に向けた啓発】として、ワーク・ライフ・バランス啓発事業・就労支援事業などに取り組んだ。

施策指標「相談者のうち就労に結びついた人数」の推移については、参加企業と求職者とのマッチングを効果的に行うことができたことから、目標値達成に向け概ね順調に推移している状況である。「シルバー人材センター登録者数」については、再雇用制度の普及等により、登録者数は減少傾向である。

今後の対応としては、重要度と満足度に大きな乖離があることを課題として捉え、市民満足度を高めるため、重点的に取り組みを進めていく。

外部評価員による主な評価結果と市の考え方

・雇用問題については、事業者側に雇用を求めることとは別に、就労支援という視点で、職に就く側への支援策の検討が重要である。例えば、生涯学習市民センターで自己開発セミナーなどを開催する取り組みも必要ではないか。

・実施されている事業内容を強化する視点だけでなく、本施策の動向を市民がより認知しやすい方法についても合わせて検討する必要がある。

・ワークライフバランス啓発事業として実施する講座については、単発で終わるのではなく、年間の実施回数を増やすことで継続性のある取り組みにすべきである。

外部評価員による評価結果を踏まえ、新たな雇用機会の創出や就労に関する取り組み支援として、就職困難者のニーズを的確に捉えた上で、より利用しやすく、実用的な講座の開催に努めるなど、実効性を十分に意識した事業展開を図る。

また、行政として、講座、パネル展、啓発リーフレットの配布などを通して、市民や事業者などに対してワーク・ライフ・バランスの啓発を行うとともに、就労支援事業については、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、働きたい女性やシングルマザーが能力を発揮し、幅広い職種に就業・起業できるよう、多様な就労関係講座を実施するなど積極的な取り組みを図る。